

コープさっぽろ 環境負荷低減の取り組み

2014. 11.12

生活協同組合コープさっぽろ
村上伸吾

本日の報告

1. コープさっぽろの事業概要
2. コープさっぽろ環境負荷低減の取り組み
3. 具体事例
4. 「持続可能な社会」を目指した取り組み

1-1. コープさっぽろの現状・事業概要

■ コープさっぽろの現状・事業概要

コープさっぽろ1965年創立

組合員141万人（北海道世帯数268.6万世帯の50%超）

全国1位の生協

店舗108店（2013年8月現在）、宅配センター33拠点

職員、正規1319人、パート10,172人

■ 2012年度事業高

組合員出資金620億円

事業高2547億円

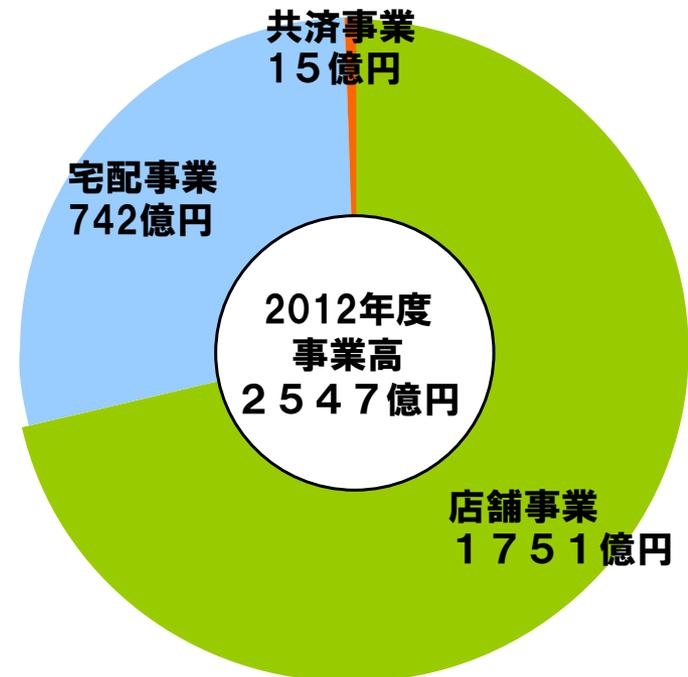
（内訳）

店舗事業1752億円

宅配事業742億円

共済事業15億円

経常剰余30億円



1-2. コープさっぽろの現状・事業概要

赤点: 宅配利用者宅

店舗 108店舗



宅配 28万世帯
物流センター 33拠点

北海道全域のインフラが武器



2-1. コープさっぽろの環境負荷低減の取り組み

「エコはエコノミー」 事業として成立する
(自社インフラ活用) ことを前提とした取り組み

- ・1998年
経営再建 「経営破綻」により事業縮小
‘03年度より剰余30億へ改善
- ・2007年 「社会貢献」を通して北海道へ貢
献を決意。まずは「環境」から・・・
- ・2008年 「洞爺湖サミット」
レジ袋有料化、基金設置し植樹
二酸化炭素削減の取り組み

2-2. コープさっぽろの環境負荷低減の取り組み

「社会貢献活動」は毎年テーマを変え、
更に各々のテーマは毎年進化させる

- ・2008年 「中国冷凍餃子事件」
北海道産の原料で製造した「北海道100」シリーズ発売
- ・2009年 「子育て」を社会貢献テーマに
- ・2010年 「地域貢献」を社会貢献テーマに
全国初木造店舗「西宮の沢店」
二酸化炭素半減の店舗が完成

2-3. コープさっぽろの環境負荷低減の取り組み

それぞれの「社会貢献」テーマが「北海道」を
キーワードに「食」と繋がりながら進化中

- ・2011年 「東日本大震災」
北海道の持続可能な社会を目指し、再生エネルギーの取り組み。
飼料米を活用した「黄金そだち」シリーズを発売。
- ・2012年 メガソーラー・バイオガスプラント建設。

3-1. 環境負荷低減活動～レジ袋有料化と植樹活動

- ・二酸化炭素排出削減の手立て
～店舗はゴミを生む～
レジ袋の辞退率は90%
他企業・市民と協働



植樹は北海道と協定

- ・レジ袋辞退につき0.5円を「コープ未来(あした)の森基金」に積み立て、北海道の森の植樹や育樹活動へ

全道10地区・植樹面積2.28ha
植樹数4800本
136t-CO₂の削減

3-2. 環境負荷低減活動～エコセンター建設

～店舗はごみを出す～

店舗・組合員が分別した「資源」を自社静脈物流を活用しセンターへ集約、圧縮や減量処理を行い売却。再生紙やトラック車両燃料として再利用も行なう。



**エコセンターの剰余は
年間1億円
宅配車両300台が
BDFで走行（ギネス認定）
80 t -CO₂の削減**

参考 エコセンター・内部



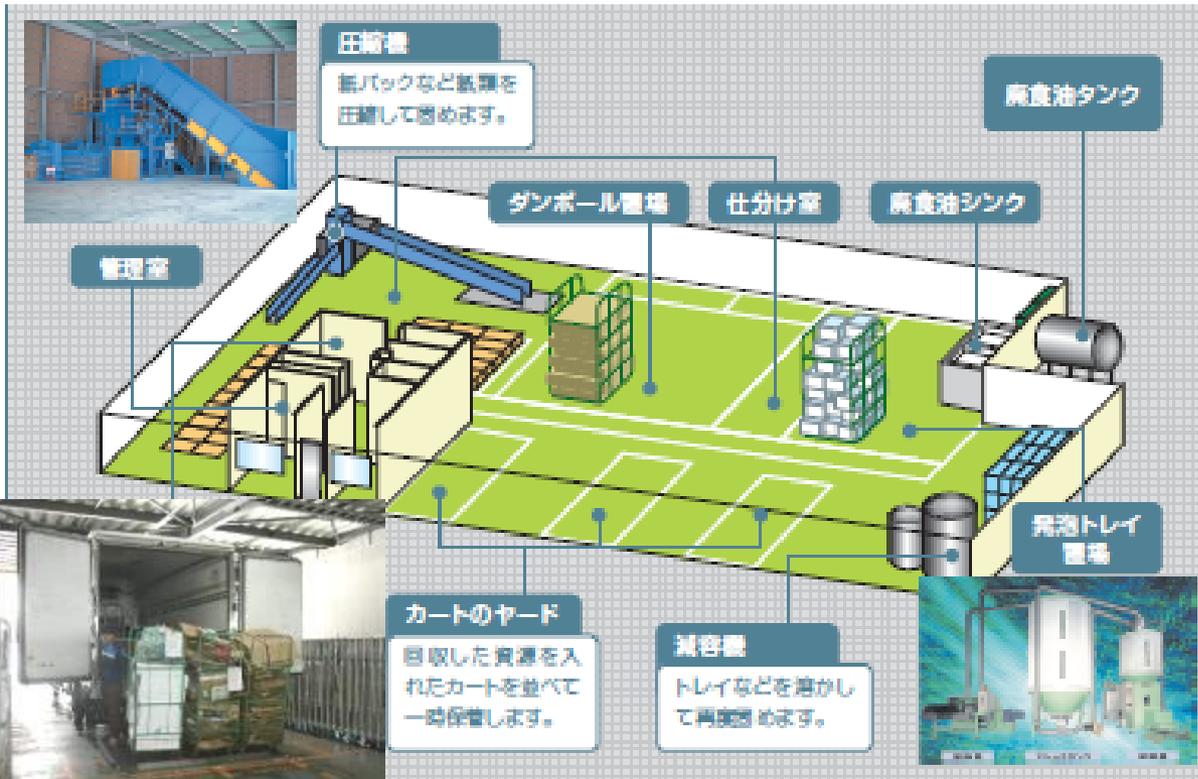
紙類はベールー処理



組合員からは廃食油が
ペットボトルで集まります



発泡は溶解して板状に



資源回収
物流トラックで

3-3. 環境負荷低減活動～木造エコ店舗

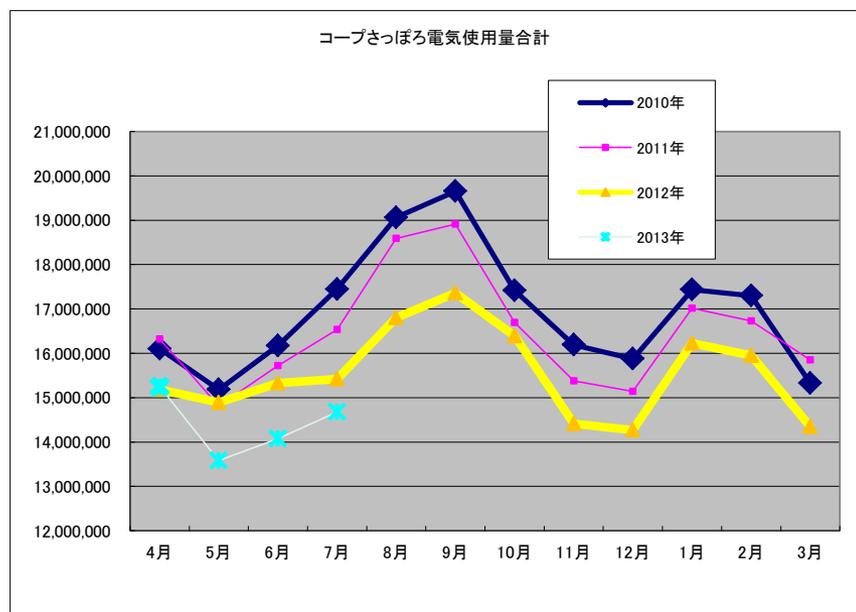
- ～店舗は作るだけ、二酸化炭素を排出する～
- ・国内初の「木造大規模スーパー」
- ・2007年から共同プロジェクト、2009年には室蘭工業大学と共同研究を実施し2010年に開店



**建築コストは1.5倍になる
立地可能場所が限られる
デメリット。
効果のある省エネ機器は
他店へ導入実施。**

3-3. 環境負荷低減活動～木造エコ店舗

- 木造にしたことで鉄筋比35%のCO2削減、省エネ機器の導入で既存店比50%のCO2削減
- 主な導入省エネ機器・・・ソーラーパネル、ソーラーウォール、複層ガラス、LED照明、コージェネレーション、ノンフロン(CO2冷媒)ショーケース



西宮の沢店の電気使用量は、オール電化の既存店対比で半減した。
コープさっぽろの2012年度の電気使用量は、冷蔵ケース照明のLED化などの取り組みで、10年対比▲9.2%となった。

3-4. 環境負荷低減活動～カーボンフットプリント

～二酸化炭素を見えるようにする～

- 室蘭工業大学との連携テーマのひとつ
- テスコ訪問と意見交換
- 北海道100を対象_現在36品目が表示対象
- コープさっぽろの独自基準で算出
- 2012年の
エコプロダクツ
で紹介

2010年3月から
16製品を計算、店舗で8品目をPOPで表示



3-4. 環境負荷低減活動～カーボンフットプリント

コープさっぽろ「独自」の意味①<計算範囲>



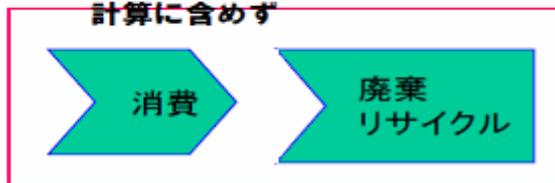
国のCFPは全工程において厳密だが、コープさっぽろは北海道の中小企業でも取り組めるように、厳密さよりも簡素化で制度の普及を意図している



計算に含めない訳

- ・消費（調理）のCO2量が極めて大きい。
- ・廃棄も自治体によって燃やしたり、埋めたり、リサイクルしたりと多様

計算に含めず



継続的な売場表示
・伝える手法が課題
2013年自社工場品
での拡大を検討

店頭端末を活用した見える化も検討し、個人の環境配慮行動への誘導を以降の優先課題とする。

当のカーボンフットプリント

この合計がコープさっぽろ独自のカーボンフットプリントです。

カーボンフットプリント表示製品	総量	原材料 (g-CO ₂)	原料調達 (g-CO ₂)	工場 (g-CO ₂)	製品輸送 (g-CO ₂)	店舗 (g-CO ₂)	合計 (g-CO ₂)
北海道アタラシイ(お好み焼き)	360g	95.2	15.0	162.3	6.7	295.2	577.7
北海道産みかん	270g	68.1	4.7	121.8	6.6	213.6	433.3
サトウの北海道産切り餅	600g	248.4	6.4	1036.0	3.9	279.7	1827.0
北海道産やまゆり産卵	600g	115.1	15.8	20.3	15.5	184.2	338.9
北海道産大豆しょうゆ	1L	506.3	94.0	3.0	1.9	235.6	802.8
北海道産みず	500g	268.3	19.2	69.3	18.3	160.8	563.9
北海道産たてヒラフ	650g	350.5	6.3	314.6	6.6	253.1	984.2
北海道産チャーハン	650g	308.7	6.3	314.6	6.6	233.5	941.8

ミニパンフ、ちらし等でアピール

コープさっぽろの「環境全体方針」

『北海道のサステイナブルな社会を目指し、

①北海道での循環型の経済を推進する

②エネルギーと食料の自給率を高める』

- ・震災支援に物資提供
車両(+燃料)提供



- ・「物資」「水」「エネルギー」の備蓄・自ら発電
- ・再生エネルギーの可能性を模索

～震災後の発展～

- 食料自給率の向上とより安心・安全な食品の提供を狙い「黄金そだち」シリーズを展開。
「循環型」で「環境にも配慮」
- 道内工場生産のプライベートブランドを開発

コープさっぽろは「北海道」でしか生き残れない。
同質競争（低価格競争）から差別化へ路線変更。
「北海道」「環境」「持続可能」「循環型」・・・

- 北海道の米を食べた鶏や豚、牛、それらがもたらす畜産物や加工品をブランド化



田んぼがよみがえる!

お米の消費量減少にともない、稲作を休止する「休耕田」が増えています。飼料米をつくることで田んぼはよみがえり、北海道の農村にも活気が生まれます。



CO₂排出量を削減!

生産地から使用場所までの輸送距離が短くて済む道産飼料米を使うことで、輸送によって排出されるCO₂量を削減できます。



より、安全・安心に!

国産飼料米にはポストハーベスト(輸送のために収穫後に使用する殺菌剤、防かび剤)の心配がありません。安全・安心がいっそう高まります。

4-2. 「食」と「環境」のつながり～黄金そだちシリーズ

『黄金そだちの別海牛乳・別海アイス』

170頭に1～1.5t給与、米10%の配合、
年間売上は9700万円



『黄金そだちの玉子』

15万羽に給与、米10%の配合、
年間売上は4億2千万円



『黄金そだちの知床鶏』

日産4500羽、仕上25日、米5%配合、
年間売上は1億円

飼料用米取扱い量は1,598トン。

14農協3生産者が参加、年間売上は合計で7.7億円

4-3. 「持続可能な社会を目指し」～メガソーラー

- 建設費の半分を組合員の出資で賄う
- 日照時間、積雪の少なさ、土地の広さなどから帯広を選択



**帯広市内・川西2箇所
1.95MW容量で建設
年間発電量は
約220万Kwhを目標。
売電を開始し、予定
通り発電されている。**

4-4. 「持続可能な社会を目指し」～バイオガスプラント

- 再生エネルギーの検討として、NEDOと共同研究。建設終了し実験中。

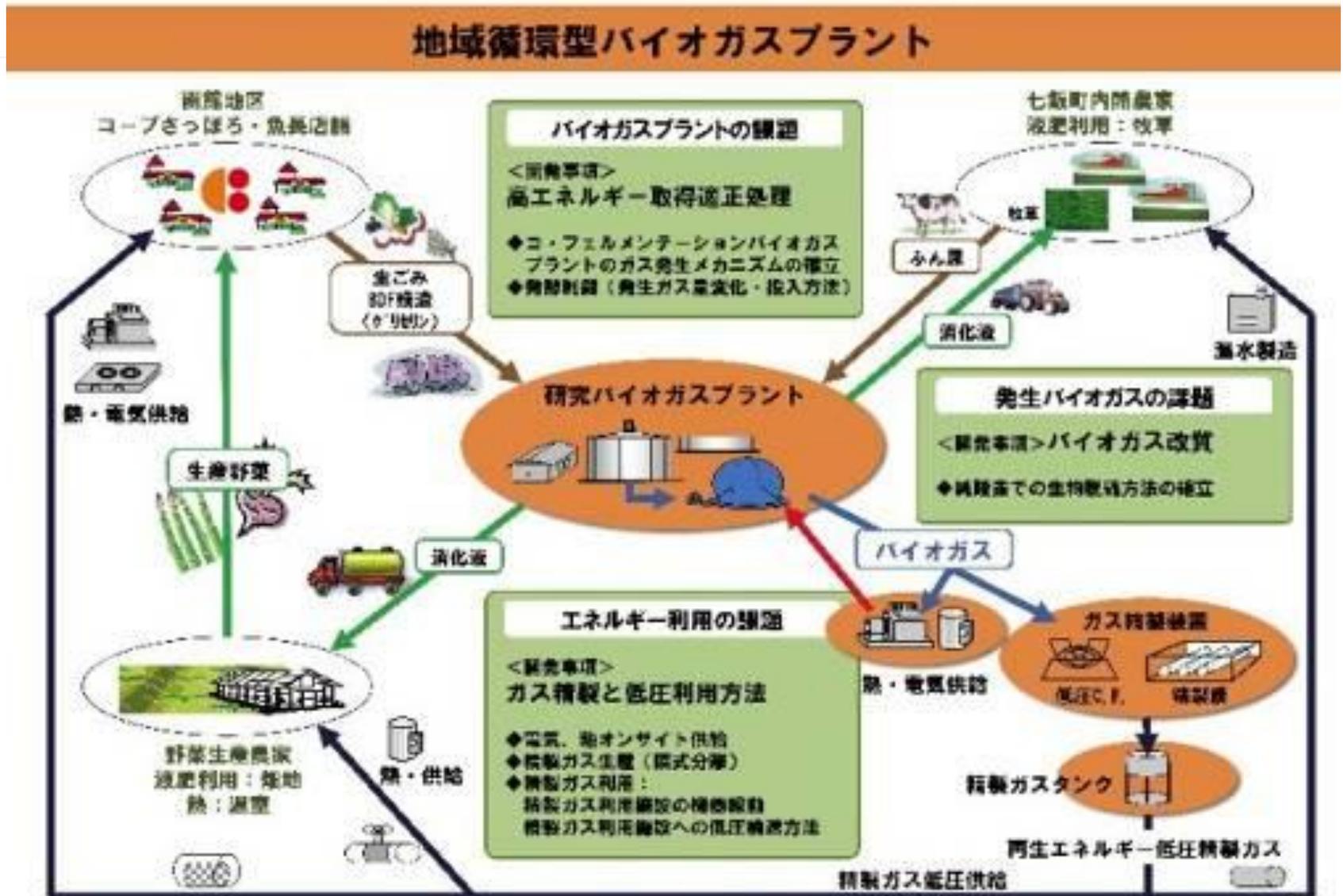
函館市内店舗から食品残渣(惣菜くず、野菜くずなど)と地元酪農家からふん尿を回収。

BDF精製時に出グリセリンを混ぜ、メタン濃度96%目指し精製する。

**液肥は生産者が 気体は店舗で
エネルギーとして活用する予定**



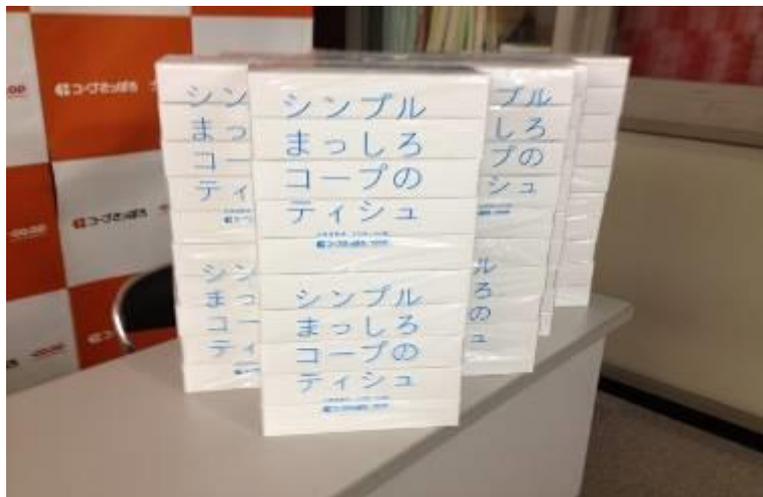
4-4. 「持続可能な社会を目指し」～バイオガスプラント



補足ー1 なるほど商品

2012年
食の貢献

コープさっぽろPB開発の
本格スタート（2012年10月1日から）
コンセプト 『シンプル・良質』『北海道製造』
コープティッシュ・コープロール2品発売
3年目で100億円規模に

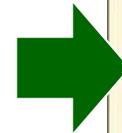
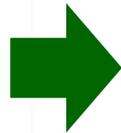


2012年
食の貢献

- ① 被災地支援
- ② 食料の地産池消・調達へ
- ③ 脱原発とエネルギー転換

多様な自然エネルギー確保へ

◆地産地消費野菜の推進



ご近所野菜
2008

ぶこつ野菜
2010

有機野菜
2012

2012年
食の貢献

- ①被災地支援
- ②食料の地産池消・調達へ
- ③脱原発とエネルギー転換 多様な自然エネルギー確保へ

◆大雪水資源保全センター(旭川)2013年1月～

東川町、JA東川、コープさっぽろ による共同出資会社



2012年
食の貢献

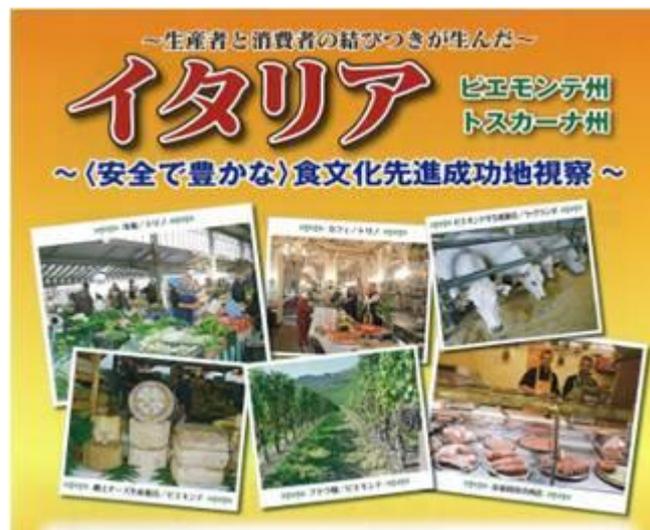
- ①被災地支援
- ②食料の地産池消・調達へ
- ③脱原発とエネルギー転換 多様な自然エネルギー確保へ

◆『クッキングスクール』

ソシア、ベルデ、いしかわに開設

◆食育の本格化へ

食育プログラムの開発へ



2013年
食の貢献

- ①産後食サービス
- ②アレルギー商品のコーナー化
- ③エゾシカ肉の取り扱い

◆『エゾシカ肉』の取り扱い

- ・北海道庁との連携で、エゾシカ肉の流通販売のしくみを作る
- ・HACCP認定工場「知床エゾシカファーム」から、道の策定した検査フローに基づき出荷された生肉を取り扱う



以上を持ちまして報告を終わります。

コープさっぽろは、各取り組みで更なる進化を続けつつ、事業を通じた地球温暖化防止に寄与し、北海道で持続できる生協でありたいと考えます。

御清聴ありがとうございました。